

主 題：恵みシリーズ11、「渴いている人よ、来なさい」

聖書箇所：ヨハネの福音書 7章37-44節

今朝は、ヨハネ7：37からみことばを学んでいきます。私たちはヨハネの福音書の学びを始めてしばらく経ちますが、この書を見ていると、めくるページごとに私たちに「神のすばらしい恵み」を伝えてくれます。どこを見ても神は罪人を招いておられます。救いを提供しておられます。すばらしい神がおられ、すばらしいこの神によって私たちは救いへと招かれたと、改めてそのことを感謝します。

今日見る箇所にも「主に恵み」が満ち溢れています。

A. 主イエスによる救いへの招き 37-39節

7：37「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。」、ここで止めます。まず、この背景をしっかりと理解いただきたいのです。いったい、いつのどんなときの出来事なのか？みことばが言う通り、これは「祭りの日」でした。この祭りは「仮庵の祭り」です。毎年10月に行なわれる祭りです。イスラエルには三つの大きな祭りがあって、それは「過越しの祭り」「7週の祭り」、そして、この「仮庵の祭り」です。イスラエルの人々は7日間仮庵に住まなければならないのです。レビ記23：42に教えるように、今もイスラエルの人たちはこれを守り続けています。「あなたがたは七日間、仮庵に住まなければならない。イスラエルで生まれた者はみな、仮庵に住まなければならない。」この箇所を含むレビ記23：40-43、また、民数記29：12-34をご覧ください。

◎祭りを祝う目的

では、なぜ、彼らはこの祭りを祝い続けるのでしょうか？その目的も聖書は私たちに教えています。

・荒野での日々を覚えるため

レビ記23：43に「これは、わたしが、エジプトの国からイスラエル人を連れ出したとき、彼らを仮庵に住ませたことを、あなたがたの後の世代が知るためである。わたしはあなたがたの神、【主】である。」とある通り、その目的がはっきりと記されています。神がエジプトの国からイスラエル人を連れ出したときに彼らは仮庵に住んだのです。ご存じのように、イスラエルの民は罪を犯したために40年間荒野をさまようことになりました。その間、彼らはどこかに定住したのではなく移動していました。そして、彼らが住んだのは仮の住まいでした。それを守りなさいと神が言われたのは、イスラエルの人たちよ、あなたたちの先祖がどのようなことを経験したのか？あの荒野でどのようなことを経験したのかしっかりと覚えていなさい。荒野をさまよったときに神は彼らを守り彼らを保ち、そして、彼らを解放してくださった、その恵みをしっかりと覚えていなさいということです。

これは、今の私たちにも言えることです。信仰者の皆さんは、神がどのようにあなたをあわれみあなたを救いへと導いてくださったのか？あなたの子もたちやまたその子どもたちに伝えていくことが必要です。イスラエルの人たちはそうしたのです。神が私たちの先祖をエジプトから解放してくださった、荒野での生活において神はどれ程のあわれみを掛けてくださったのか、その神の恵みをしっかりと覚え、それを後の時代の人たちに伝え続けていくのです。そのためにこの祭りを守りなさいと言われたのです。

・神の賜物である水への感謝と祈り

目的はもう一つありました。この仮庵の祭りをするとき、人々は神の賜物である水に感謝の祈りをささげました。彼らは過去に神がどのように自分たちの先祖をあわれんでくださったのか、そのことを覚えるのですが、同時に、神が彼らに必要な食べ物も水も与えてくださった、それを覚えて「神さまどうぞ、今の私たちにも水を豊かに与えてください。それによって、私たちが豊かに農産物を得ることができるように。」と彼らは祈ったのです。このことも仮庵の祭りの目的でした。神がどんなことをしてくださったのかを覚えなさいと。

☆祭りの間、どのようなことをするのか？

・いけにえをささげる

簡単に言うなら、彼らはこの期間中、いけにえをささげました。彼らは雄牛、雄羊、一歳の小羊、雄山羊をささげ、もちろん、穀物のささげ物もします。こうして、彼らは神の前に日々いけにえをささげました。細かいことは、民数記29章に出て来ます。皆さんに覚えていただきたいことは、彼らはこうしていけにえをささげたということです。

・水をささげる

もう一つ、彼らは水をささげました。皆さん、もう感づかれたでしょう。人々はこの祭りのときにこのようなことをしていたので、イエスはこのときに「水について」話すのです。イエスほど完璧な教師

は存在しません。完璧な最高の教師です。彼が言われることは常に正しく、言われるタイミングも完璧です。今まで私たちが見て来たように、イエスはそのときの人々の関心を用いて、それから霊的な真理へと導いていかれるのです。ここにもそれを見ることができます。

この「水をささげる」ということについて、祭りの間にこのようなことが行なわれました。祭りの期間中、祭司は毎日、神殿から出て神殿の南側にあるシロアムの池に出掛けて行って、約1リットル入る金の水入れに水を満たしてまた神殿に戻って来ます。祭司は「泉の門」から入って来ますが、そのときに、ラツパが鳴ってレビの聖歌隊がイザヤ書の12章3節「あなたがたは喜びながら救いの泉から水を汲む。」のことは大声で暗唱するのです。そして、祭司が水入れをもって祭壇の周りを行進する間、聖歌隊は詩篇113篇から118篇を歌います。そのときに、群衆は大声を上げて、それぞれが手にしていた「なつめやししの枝」を振ります。ともに喜んだのです。汲んで来た水は大祭司が祭壇に注いで主へのささげ物としたのです。

「いけにえをささげる」だけでなく、このように「水をささげる」ことも行なったのです。ですから、7:37に記されている「祭り」とはこのことです。ここには「祭りの終わりの大いなる日に、」と書かれています。いったい何のことでしょう？実は、祭りの最後の日が一番盛大に行われたのです。このようなことが行われました。七日目か八日目か、いろんな説があります。いずれにせよ、最後に祭司たちは祭壇の周りを7回周ります。これには意味があります。イスラエルの人々の歴史の中で彼らがある所を7回周ったことがありました。思い出されましたか？エリコでの出来事です。荒野を旅して来たイスラエルの民、神に逆らった民は死に絶え、新しい世代の民がこれから約束の地に入っていくとします。ヨシュアというリーダーが立てられて彼らはヨルダン川を渡ってエリコへとやって来ました。難攻不落のエリコの城壁を彼らはその周りを7回周ることによって征服しました。

この「仮庵の祭り」の最後の日、祭司たちは祭壇の周りを7回周ったのです。明らかに、ここには大きな意味があります。40年間、我々の先祖は罪ゆえに荒野をさまよった。でも、神はその罪を赦してくださって、その荒野から解放してくださり、先祖たちは約束の地に入っていくと。祭司たちはその後、水を注ぎます。それを見ているイスラエルの人々の中にどのような思いがあったのか？彼らは神の豊かな恵みを覚えました。人々を守られた神の恵みを覚えたのです。そして、あのエリコの城壁が神によって崩され町を征服したという一連の出来事を人々は覚えながら、神を心から誉め称えたのです。そして、水が注がれました。主は荒野にあって人々の渇きを満たしてくださった。あの荒れ地の渇き切ったところにいるなら、私たちのこの日本とは違います、ここには湿度がありますが、そこでは必然的に喉が渇きます。その渇きを神は満たしてくださった、そのことを思い出していた人々の前にイエスは立たれるのです。37節に続いて「イエスは立って、」とあります。そのような思いをもっている人々の前にイエスは立ち上がって言われます。「…大声で言われた。だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」と。

一番いいタイミングで、イエスは彼らの心を霊的なことへ向けさせようとするのです。彼らは過去のことを思い出していました。確かに、神はこのようにして自分たちの先祖の渇きを満たしてくださったと。そこでイエスが立って「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」「わたしがその渇きを満たしてあげます。」と言われたのです。当然、聞いている人たちは「この人は何を言っているのか？」と好奇心をもちます。イエスが言われていることに関心を払います。イエスはこのようにして見事に人々の関心を集めて、これから大切な真理について話されるのです。まさに、この後を見るときに私たちはそのことを教えられます。

***主イエスは人々を救いへと招かれる。神だけがいのちの水を与えることができる。**

私たちはもうすでにそのことを見て来ました。イエスはあのサマリヤの女を導かれました。水を汲みに来た女性に「:13 イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。 :14 しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」（ヨハネ4:13-14）」と。彼女は「先生。私が渇くことがなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」（4:15）」と、イエスは霊的なことを話されて救いへと導き、彼女は救いに与りました。前回見たように、ユダヤ人たちはパンを食べて空腹を満たしたとき、彼らはもっとパンが欲しいとイエスの後についていきます。彼らの関心はただ口にするパンでした。そこで、イエスはもっと大切なものがある、「天から下って来たパンは永遠のいのちを与える」と言われます。人々はそれが欲しいと言います。そこでイエスは霊的な話をされたのです。この37節を見ても、群衆に対してイエスは「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」と言われて、ご自分のもとにこの群衆を招いておられるのです。なぜなら、イエスは「いのちの水」を与えることができるからです。ですから、私たちはこの後、イエスが為さった招きを見ていきます。群衆を救いへと招こうとされているイエスのメッセージを見ていきます。

その前に一つ皆さんに覚えていただきたいことがあります。「救いはあくまで個人的なものだ」ということです。みことばは私たちに教えてくれます。38節の初めに「わたしを信じる者は、」とあります。この「信じる」という動詞は単数形です。個人個人が信じるということです。ですから、両親が救われているから自分は救われているという保証はどこにもありません。クリスチャンホームに生まれて私はずっとみことばを聞いていたから救われているという保証はどこにもありません。主はひとり一人を招いておられます。それにあなた自身が応えなければいけないのです。そのことは皆さんもうよくご存じのことです。

★「主の招き」の三つのステップ

37節の続きをご覧ください。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」、ここには「渴く」「来て」「飲みなさい」という三つの動詞があります。

1. 自分について知る

「だれでも渴いているなら、」、初めに「渴く」という動詞を見ましょう。イエスは言われます。この救いに与るためにはまず、あなたは自分について正しく知らなければいけないと。自分がどのような者であるかを知らなければいけないと言います。私たちがいかに罪に汚れた者であるかということを知らなければ、私たちは絶対に罪の赦しを求めて神のもとにはいきません。覚えておられますか？自分は神の前に正しいと自任して他の人たちを見下している者たちがたくさんいました。そのような人たちに対してイエスはあるたとえをもって話をされました。ルカの福音書18章に出て来ます。18:9-14「:9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。:10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりパリサイ人で、もうひとり取税人であった。:11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆるする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。』、パリサイ人は明らかに「私は正しい。私はこの取税人よりもはるかに聖く正しい人間だ。彼よりも私は勝っている。」と、そのような態度が見て取れます。取税人を見下しおぼえています。しかも、「:12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』」と言います。これが彼の救いの根拠です。このようなことを行なっているから私は救われていると思いついていたのです。良い人間だし悪いことなどしていない、しかも、神が喜ばれることをしている、だから、私は間違いなく死んでも天国に行けるのだと。自分は聖いと彼は自任するのです。そして、「:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。」と、この姿は私たちに彼の心を見せてくれます。というのは、彼は聖い正しい神を見る資格など私にはないと言いつつ、自分は余りにも罪に汚れた者だと大変な悲しみを表わしているからです。私は神に喜ばれていないと、その事実が彼を苦しめるのです。そして、彼はこのように祈ります。「『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』」と。イエスはこのように言われました。「:14 あなたがたに言うが、この人が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。」と。

何を言われたのでしょうか？主の救いに与る人は自分の罪深さを知っている人だとイエスは言われているのです。私のうちには罪がある、私は神のさばきを受けて当然の人間である。悲しいことに、私の肉には神を喜ばせるものがない、私は永遠の地獄に向かっているし、それが私にはふさわしいものだ、それほど私は罪に汚れていると、自分の本当の姿に気付くことです。まず初めに、一人ひとりが気付かなければいけないこと、知らなければいけないこと、それはあなた自身の本当の姿、どれほど罪に汚れているかということだとイエスは言われます。

2. 主イエス・キリストについて知る

二つ目は「わたしのもとに来て」、「来る」という動詞です。これは命令です。ということは、「イエスについて知りなさい」ということです。イエスのもとに来るとき、その方がだれかを知らなければいけません。イエスがいったいだれなのかを正しく知りなさいと言うのです。この方は創造主です。すべてのものを造られた方です。この方はすべての主です。すべての被造物から称賛を受けるにふさわしいお方です。この方はすべてのことをご自分の計画に基づいて為しておられます。この方が考えたことが成されるのです。この方は神です。絶対的な主権者、だれの助けもだれの知恵も、だれのアドバイスも必要としません。そして、主イエスは救い主だと言います。この方には罪を赦す力があり、罪人をその罪から聖め生まれ変わらせる力があるのです。

ですから、自分を正しく知るだけでなく、主イエス・キリストのことを正しく知るのです。

3. 信じる

三つ目は「飲みなさい。」という動詞です。これも命令形です。つまり、「信じる」ということです。主イエスが言われたことが真実であると信じることです。私たちは何かを安心して飲もうとするなら、確かに、日本では飲んで危険なものはないでしょう、でも、国によっては飲むと病気になるもの、下痢を起こすものがあります。ですから注意が必要です。それが安全かどうかを知らなければいけません。

私たちがイエスを信じるというのは、イエスが言われたことが真実だと確信をもって受け入れることです。イエスはことばで言われただけではありません。十字架に架かって死んでくださった。あの十字架は私のためだった、私の身代わりだったと、イエスはそのように言われ、聖書はそのように教えているから私はそれを信じる。主イエス・キリストは肉体をもってその死からよみがえって来られた。そのように聖書が教えている。私はそのことを信じる。主イエス・キリストは私の罪を完全に赦し、私を新しく生まれ変わらせてくださった、そのように言われたから私はそれを信じると。

主が教えてくださるこの真実を心から信じて、この方を私の神、私が従っていく私の主人、そして、私自身はこの方の奴隷として、この方の後を付いて行こうとします。このように信じることによって渇きが満たされると言われます。イエスはこの37節でこのように群衆を救いへと導いておられます。どうすればいいのかを教えてください。

B. 主イエスの救いの祝福 38-39節

38節から「主イエスの救いの祝福」が書かれています。「救いのもたらず祝福」とも言えるでしょう。「:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」:39 これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ注がれていなかったからである。」、

1. 預言の成就

「聖書が言っているとおりに」とあります。つまり、預言されていた祝福をいただくということです。預言されていた「本当のたましいの渇きを満たす水をいただく」ということです。実は、そのように預言されていたのです。たとえば、イザヤ章12:3には「あなたがたは喜びながら救いの泉から水を汲む。」とあります。何を教えているのか？神が救いを与えてくださる、しかも、そのことをイザヤは「救いの泉から水を汲む。」と言い、イエスは「わたしがその水を与える」と言われます。「渇いている人はわたしのところに来なさい。わたしがその人に生ける水を与える。」と。イエスは何となくこのようなことを言われたわけではありません。ちゃんと何を伝えるべきかを知って語っておられるのです。イエスが言われていることは、ご自分は預言されていた救世主だけではない、預言されていた祝福を信じる者たちに与えることのできるもの、人々に生ける水を与えることのできるもの、心の渇きを満たす、その満たしを与えることのできる神だということです。イザヤ書には44:3にも「わたしは潤いのない地に水を注ぎ、かわいた地に豊かな流れを注ぎ、わたしの霊をあなたのすえに、わたしの祝福をあなたの子孫に注ごう。」、58:11にも「【主】は絶えず、あなたを導いて、焼けつく土地でも、あなたの思いを満たし、あなたの骨を強くする。あなたは、潤された園のようになり、水のかれない源のようになる。」と預言されています。

2. 約束の祝福

約束の祝福がいくつか出て来ます。三つあります。

1) 心の渇きが満たされる

今、見て来た通りです。前回、私たちは「イエスはいのちのパンである」と学びましたが、その時にも「心の渇きが満たされる」ことを学びました。イエスは肉のパンを食べることが間違っているとは言われませんでした。それも必要だがもっと大切なことがある、それは私たちの心が満たされることだと言われました。そして、イエスは「わたしがその心を満たす、いのちのパンだ」と言われました。

そして7章では、イエスは「わたしを信じる者には生ける水が与えられる」と言われます。「渇いている者の渇きを神が満たしてくださる」と。イスラエルの民は荒野で喉の渇きを覚えたときに、神から水をいただきました。でも、その満たしは一時的なものです。でも、イエスが言われる水は「あなたがたのたましいを心を満たすことができる」のです。みことばを見ましょう。イザヤ55:1-3「:1 ああ。渇いている者はみな、水を求めて出て来い。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買って、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買え。:2 なぜ、あなたがたは、食糧にもならない物のために金を払い、腹を満たさない物のために労するのか。わたしに聞き従い、良い物を食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づこう。:3 耳を傾け、わたしのところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたとこしえの契約、ダビデへの変わらない愛の契約を結ぶ。」、ヨハネの福音書6:35「イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。」、これが救われた者たちに与えられる祝福であると、このことは前回見ました。

そうすると、そこでも見たように、私たちには大きな責任があるということです。本当に心を満たされた者として私たちは生きていくかどうかです。なぜなら、その祝福を神が与えてくださったからです。これから先に与えるとは言われていません。イエス・キリストを信じたときに、私たちは渇きが満たされたはずですが、だから、私たちクリスチャンの口からいろいろな不満が出て来るといえるのはおかしいです。主が私たちに満たしてくださったからです。

まず、主の祝福は神が私たちの心の渇きを満たしてくださるということです。

2) 世に影響を及ぼす者となる 38節

次に、38節をご覧ください。「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」とあります。先ほどから、「生ける水の川」とか「生ける水」のことを話しているのですが、これは「永遠のいのち」のことです。イエスは「あなたがたには生ける水が必要だ」「永遠のいのちが必要だ」と言われます。なぜなら、私たちは生まれながらにみな靈的に死んでいる者だからです。前回見た通りです。肉体的に生きていても靈的に死んでいます。なぜなら、いのちの源である神とつながっていなければ、神からいのちをいただくこともないし、祝福をいただくこともないからです。

皆さん、私たちは「永遠のいのち」と何度も言いますが、イエスは私たちに「永遠のいのちを与えることができる」と言われました。なぜなら、永遠のいのちは神がもっておられるいのちだからです。だから、神が与えることができるのです。私たちは自分で努力して「永遠のいのち」を獲得することなどできません。私たちの中のだれかが「永遠のいのち」をくれるか？それは不可能です。私たちは永遠に生きるいのちを持っていないからです。「永遠のいのち」は神のいのちです。神には初めも終わりもない、永遠から永遠に生きておられます。その方が「神のいのち」というものを信じる者に与えると言われたのです。私たちが神になるのではありません。

ですから、私たちは生まれながらに靈的に死んだ者であって神のいのちをいただいていないから、神は繰り返して私たちをそのいのちへと招いておられるのです。私たちが永遠のいのちをもっているなら招く必要などありません。「わたしのところに来なさい。わたしが与えて上げよう。」と。でも、見て来たように、そのためには私たち自身が本当に罪深い滅びに向かう、また、滅びに至って当然の罪人であることに気付かなければいけません。そして、イエス・キリストが真の救い主であり、私を完全に赦すことのできる方だということを知らなければいけません。そして、その真理を心から信じ、この方を自らの神として心から従っていこうとする、その信仰が必要だと私たちは見て来ました。

ですから、少なくとも、「生ける水」のことは分かりました。見ていただきたいのは、38節の後半に「生ける水の川が流れ出るようになる。」と書かれているところです。「生ける水」をいただくだけではないのです。その後、「生ける水の川が流れ出るようになる。」と言います。しかも、「その人の心の奥底から、」と、信者の内側からです。何のことでしょう？イエスの救いに与った人たち、永遠のいのちをいただいた人たちは、間違いなく、心の奥底から神に感謝を現わします。救われたことを喜んでいのです。祝福をいただいた者たちはその祝福を喜んでいます。それで終わるのではなく、今度はその祝福があなたの内側から出て来て「川のように流れ出る」のです。つまり、祝福をいただいた者たちはその祝福を人々と分かち合う者になるということです。神からいただき永遠のいのちと祝福があなたからまるで川のように流れ出て、周りの人々にそれが明らかになり、それが彼らの祝福となるということです。

多くのクリスチャンホームに育った友人たちが「クリスチャンホームに生まれ育ったことが本当に感謝です。」とよく証してくれたことを思い出します。そのときに私が必ず言ったことは「確かにそうだと思う」と、私は未信者の家庭に生まれ育ちました。我が家で最初に信仰をもったのは私です。そして、感謝なことに、家族のすべてはイエスの救いに与りました。ですから、彼らに言います。「私の感謝は、こんな私が両親と弟を救いへと導く、そのお役にたったことだ。」と。私たちは使徒の働き16:31のみことばを知っています。「ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。」、なぜなら、神を知らない家庭の中でだれかが信仰をもつなら、その人を通して神の祝福がその家庭の中に溢れていくからです。そのようにして神は私たち信仰者を用いようとしてくださるのです。もちろん、私たちが完全な人間になって完全な証をするのか？悲しいことに、そうでないことがたくさんあります。しかし、あわれみ深い神は私たちのような不完全な信仰者であっても、その私たちを使ってこの祝福を人々の前にもたらず者として生まれ変わらせてくださったのです。

そのことを主はここでお話になっているのです。救いというのは、天国への切符をもらったからよかった！ではありません。その祝福があなたから溢れ出て来て、周りの人たちにこのすばらしい主が明らかにされていくのです。思い出しませんか？私たちが何回も学んで来たように、私たちの神を自分の目で見ることはできません。でも、人々は神を見るのです。あなたや私を通して…。世の中の人々は神の愛がどんなものかを知りません。私たちを通して知るのです。神の赦しがどんなものか分かりません。あなたを通して知るのです。そのために神はあなたを用いられるのでしょうか？そうですよね、皆さん。神はあなたに永遠のいのちの切符を与えて「では、好きに生きなさい」とは決して言われてはいません。なぜ、神はあなたを「地の塩である、世の光である」と言われたのか？私たち信仰者には役割があるからです。この地上にあって、神を知らない人々の中であって、それが家庭であろうと社会であろうと、学校であろうとどこであろうと、私たちの使命は人々の前に「こんなにもすばらしい祝福を神はくださ

る！こんな祝福を与える神がおられる。そして、生まれ変わった私たちはこのように造り変えられるのです。」と明らかにすることです。その務めを神はあなたに与えてくださったのです。これがイエスが言われた救いなのです。だから、皆さん、神のおことばをしっかりと聞くことです。そして、神のおことばを実践することです。

皆さんにお勧めします。この場を去るときに、もし、だれかと祈れるなら、— 私たちはよく「祈りって難しい」と言います。そうでしょう。人前で祈ることは難しいです。一つの助言は、皆さんが個人で祈るときに声を出して祈ってください。そうすると、徐々に声に出して祈ることがそれ程難しいことではないことが分かります—、親しい人と、ことば足らずでもことばが間違っていると言いたいことが伝わるような親しい人と「いっしょに祈りましょう。今日から私は神に用いてもらいたい。これから家族が待っている家に帰るけれど、そのときに私の神であるイエスがどんなにすばらしいか、私の家族がそのことにしっかり気付けるように、私の友人たちがイエスの救いがどんなにすばらしいものか、そのことを知ることができるように、神さま、どうぞ私を使ってください。その祈りをもって私は今日帰りたい。その祈りを継続しながら残されたこの一日を過ごしたい。」と、ぜひ、そのように生きてください。そうするとき、神は約束された通りあなたを使ってくださるのです。なぜなら、その役割を果たすために神は私たちを救ってくださったからです。こんなすばらしい祝福を、神の偉大さを、人々の前に証するという務めを神は私たちにくださったのです。

***それが可能なのは、あなたには「新しい心」が与えられているからです。**

新しい心は新しい行ないを生み出していくのです。そして、その新しい心をいただいた者たちが救われたクリスチャンなのです。名前だけではありません。神によって救われた本当のクリスチャンは、その内側から、みことばが言うように「心の奥底から」、神のすばらしさを感謝するゆえに、そのすばらしさが溢れ出て来るのです。そんな人になりましょう！皆さん。そんな人に神は変えると約束して下さっているのです。みことばを見てください。エゼキエル書 36 : 26 - 27 「:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。」、ゼカリヤ書 13 : 1 「その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。」、だから、私たちの祈りは個人としても、親しい友との祈りも「主よ、私を変えてください！」です。

3. 聖霊を宿す者となる 39節

39節「これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったもので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」、イエスはここで「生ける水の川が流れ出るようになる」と言われましたが、これは「聖霊なる神」のことだと教えておられるのです。つまり、主イエス・キリストを信じる者に聖霊なる神が与えられるということです。39節の後半には「イエスはまだ栄光を受けておられなかったもので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」とあります。イエスはまだ十字架に架かっておられないということです。イエスが栄光を受けるためには、地上での働きを終えることが必要だったのです。十字架に架かり、そして、よみがえること、そして、昇天することです。だから、イエスはある時からこんなことを弟子たちにお話になりました。「それは人の子が栄光を受けるそのときが来ました。」ということです。ヨハネの福音書 12章にも 13章に書かれています。12章はイエスがエルサレムに入城された後です。もう十字架が近づいて来ています。今見ている7章のときからは十字架までまだ半年もありました。13章では「最後の晩餐」のときです。イスカリオテのユダが出て行ったときにイエスは言われました。「ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受けました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。」(13:31)。ご自分が十字架で死ぬ時が近づいていると、そのことを言われたのです。

そのことを一番表わしているのがヨハネ 12 : 23, 24です。「:23 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみかたです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」と。主イエス・キリストの死のことです。「死ぬ」ということです。ですから、7 : 39で「イエスはまだ栄光を受けておられなかったもので、御霊はまだ注がれていなかったからである。」と言うのです。今の私たちには分かります。イエスが昇天された後、聖霊が信者のうちにくださったのです。このとき、イエスはこのように語られたけれど、人々はよく分からなかったのです。実際には、後にそれを経験するのです。このような約束を救われた人に与えるとイエスは言われました。

C. 主イエスは約束の救い主 40-44節

40-44節「:40 このことばを聞いて、群衆のうちのある者は、「あの方は、確かにあの預言者なのだ」と言い、:41 またある者は、「この方はキリストだ」と言った。またある者は言った。「まさか、キリストはガリラ

ヤからは出ないだろう。:42 キリストはダビデの子孫から、またダビデがいたベツレヘムの村から出る、と聖書が言っているではないか。」:43 そこで、群衆の間にイエスのことで分裂が起こった。:44 その中にはイエスを捕らえたいと思った者もいたが、イエスに手をかけた者はなかった。」、

1. 約束の預言者 40-41節

実は、モーセがシナイ山で十戒を受けたとき、神は民に語られました。民は恐れしました。「神の声を聞いて生きている人はだれもいない」と。そこで彼らは神にお願いします。もう二度とそのようなことがないようにと。そのことは申命記18:15-20に書かれています。「:15 あなたの神、【主】は、あなたのうちから、あなたの同胞の中から、私のようなひとりの預言者をあなたのために起こされる。彼に聞き従わなければならない。:16 これはあなたが、ホレブであの集まりの日に、あなたの神、【主】に求めたそのことによるものである。あなたは、「私の神、【主】の声を二度と聞きたくありません。またこの大きな火をもう見たくありません。私は死にたくありません」と言った。:17 それで【主】は私に言われた。「彼らの言ったことはもっともだ。:18 わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのようなひとりの預言者を起こそう。わたしは彼の口にわたしのことばを授けよう。彼は、わたしが命じることをみな、彼らに告げる。:19 わたしの名によって彼が告げるわたしのことばに聞き従わない者があれば、わたしが彼に責任を問う。:20 ただし、わたしが告げよと命じていないことを、不遜にもわたしの名によって告げたり、あるいは、ほかの神々の名によって告げたりする預言者があるなら、その預言者は死ななければならない。」と、このような預言が神によって与えられるのです。だれのことですか？モーセのような預言者、主イエスです。

ですから、あの預言者、約束されている預言者だと群衆は言いました。イエスは「その通りだ」と言われました。「神があのかのシナイ山でイスラエルの民に語られたときに「モーセのような預言者が与えられる」と言われた。それがわたしだ」と。それに対する人々の反応を見てください。

2. 民衆の無知 42-44節

42-44節を見てください。みなはいろいろなことを言います。そして、「分裂が起こった。」とあります。なぜ、人々は実際に行かなかったのでしょうか？調べようとしなかったのでしょうか？このときはエルサレムにいました。ベツレヘムまで遠くはなかったし、ナザレの町もそれ程遠くありません。みな、ガリラヤまで行っています。彼らはいろいろと議論しますが、では、何が真理なのかについて自分たちで探ろうとしないのです。イエスがそこにおられるのです。自分たちの目で見ているのです。イエスのおことばを聞いたのです。この方が言われていることは本当なのか？この方が私たちが待ち焦がれていた救い主なのか？と、調べようがあったのです。でも、だれもそれをしていません。

・主イエスは、確かに、預言通りにお生まれになった救い主である

彼らの議論の様子を見たときに、私たちは大切なことを知ります。42節にありました。「キリストはダビデの子孫から、またダビデがいたベツレヘムの村から出る、」と。キリストは、救世主はベツレヘムから出て来る、救い主はベツレヘムの町に生まれると。ミカ書5:2に「ベツレヘム・エフラテよ。あなたはユダの氏族の中で最も小さいものだが、あなたのうちから、わたしのために、イスラエルの支配者になる者が出る。その出ることは、昔から、永遠の昔からの定めである。」とこのように預言されています。質問です。イエス・キリストはどこでお生まれになりましたか？ベツレヘムです。彼らの発言したことばが私たちに、この方は確かにベツレヘムでお生まれになったキリスト、救い主だということを明らかにしています。悲しいことに、彼らは真理を求めませんでした。議論で終わったのです。しかし、感謝なことに、あなたはそこで終わらなかつた。このキリストを受け入れたのです。

そして、神が約束されたように、神はあなたに救いを与えてくださった。信仰者のみなさん、今日、私たちはこのように大切なことを見て来ました。イエスは確かに罪人を招いてくださった。そして、私たちに大切な務めを与えてくださった。この祝福を人々に分け与えるという務めです。主の助けをいただきながらその務めを果たしてください。いろいろな人たちはいろいろな形でみことばを聞くでしょう。でも、一番説得力があるのは、神によって救われたあなたの証です。彼らは実際にそれを見ることのできるからです。どうぞ、今からのあなたの祈りが「主よ、どうぞ私を使ってください。どれだけ地上に神は置いてくださるかかわからない。でも、今日は間違いなく使ってください。主よ、どうぞ、この日をあなたが用いてくださって、私の愛する家族や友人たちにあなたが本当の救い主であることを伝えることができるように、私を使ってください。」と、この祈りを一人ひとりがささげながら今日お帰りいただけますか？

神がどのようにあなたをお使いになるのか？私たちは期待します。でも、この祈りはあなたから始めなければなりません。なぜなら、この働きのためにあなたは救われたからです。あなたから「生ける水の川が流れ出るようになる」、その働きを為す者として神はあなたを救ってくださったのです。どうぞ、その祈りをもって今日お帰りいただきたいと心から願います。

《考えましょう》

1. 自分の罪深さを知ることが、どうして救われるためには必要なのでしょうか？
2. 「信じる人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」とは、だれのことを指していると主イエスは言われましたか？
3. 「生ける水の川が流れ出るようになる。」とは、どういう意味かを説明してください。
4. 3の答えから、どうしてそのようなことが可能なのでしょうか？その理由をお書きください。